

郷土の貴重な文化遺産を収集、展示し、郷土に対する理解と知識を深めてもらうと、岡豊山に建設されていた県立歴史民俗資料館がこのほど竣工。来年五月の開館に向けて、今準備が着々と行われています。

また、資料館には高知文化財団も設置されており、県民のニーズに応える文化行政をと関係者は意欲を燃やしています。

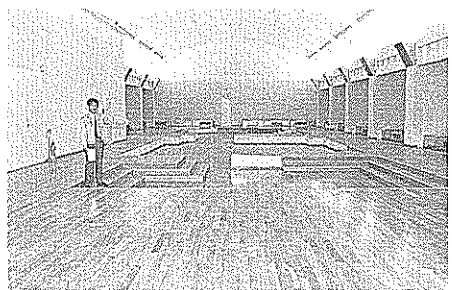


歴史民俗資料館

県民のニーズに こたえる施設に

県立歴史民俗資料館は、昭和五十三年、高知県文化行政推進協議会が「中間まとめ」で設立を提言、五十八年に岡豊山に建設することが決まり、六十三年十月から工事が行われていました。建物、長宗我部元親の居城

があった岡豊山にふさわしく、中世の城をイメージしてデザインされています。地上三階建て、敷地面積約九、〇〇〇平方メートル、延べ床面積四、四七二・二二平方メートルの総合展示室のほか、民俗展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、アトリウム（中庭）などが設けられており、総事業費は四十二億円。総合展示室では、原始時代から近・現代に至るまでの高知県



総合展示室

開館に向けて準備進む

の歴史を原始・古代、中世、近世、近現代の四コーナーに分けて一堂に紹介。特に米作りが始まったころの弥生時代、長宗我部元親の生きた戦国時代、幕末維新期に重点を置き、空港拡張時の調査で田村遺跡から発掘された水田も展示されることになっています。

また、館内では、資料館の開館準備室と合わせて、財団法人高知県文化財団も設けられています。文化財団は、県民の文化芸術活動の母体として、今年の三月二十八日に設立されました。歴史民俗資料館や、平成三年に



館内では開館準備が着々と進んでいる

からの寄託にも期待しています。文化活動の母体文化財団設立

篠原に開設予定の埋蔵文化財センター、平成五年秋に開館予定の美術館などの運営や管理を行うことになっています。

小橋一民県教育委員会参事（文化財団専務理事）は、「民間の意見も反映し、行政だけではできないことを自由な発想で取り組んでいきたい」と抱負を語っていました。

米枝利実市教育長は、「市にあるという立地条件を生かし、積極的に利用していきたい」と期待を寄せています。



抱負を語る小橋参事

埋蔵文化財 センターを設立

毎年県内各地で発掘調査が行われており、その出土遺物の整理などは市内篠原の県文化振興課南国連絡所で行われています。この連絡所では、現在平屋建てのプレハブが三棟あり、八人の調査員と十二人の整理作業員が、具同・中山、西分増井、金地遺跡などの発掘調査結果の整理に当たっています。

県では、八千万円をかけてこの埋蔵文化財センターとして整備。出土遺物の展示や作業過程の公開などを行い、歴史民俗資料館と有機的に連携させ、考古分野のセンターとして、県民に埋蔵文化財に対する認識を深めてもらう場にしよう」と計画しています。



篠原の連絡所では発掘調査の整理作業が行われている

広報に「市民の声」を

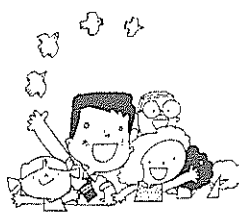
常日ごろ「市と私達とを結ぶ欄」または「一言欄」のような欄を広報の一部に設けていただければと思っておりますが、どんなものでしょうか。

あなたの意見を お寄せください

市制施行後三十年が過ぎ、市発足と同時に発刊されてきた広報「なんこく」ももうすぐ五五

〇号。発刊以来、内外からいろいろな指導や意見をいただきながら現在に至っています。県下で唯一の「月二回」、発行を継続しているものの、「記事が平凡で面白くない」「月に一回の発行でもいいのではないかな」などといった声もあり、広報委員会では、常に市民に興味を持って読んでいただける広報紙作りを目指して努力しています。

広報紙は市民と市をつなぐパイプ役。そのためには、まず市民の皆さんの参加が必要です。皆さんのご意見をどんどん南国市広報委員会（〒783 南国市大桶甲一三〇一）までお寄せください。『市民の声』として広報に掲載していきます。



実施に向けて

実行委員会を組織



今年も まほろば祭りを

歌や踊り、吾岡山からの打ち上げ花火など、昨年度を記念して行われた「土佐のまほろば祭り」。会場には二万人が詰めかけ、夢とロマンの市民の祭典を楽しまれました。多彩な舞台、絵馬街道、花火など、音と光が織りなす市民の

祭りを「ぜひ今年も」と言う声が多岐から上がっていました。そこで、観光協会や商工会などが中心となって、市内の団体で「土佐のまほろば祭り実行委員会」を組織することになりました。六月五日に発足、催しや資金作りなど、祭りの実施に向けて取り組んでいくことになっています。